

豊田市立崇化館中学校校長室だより



令和8年10月28日（水）No.6 文責：松原秀敏

先輩がいて**今**があり 後輩がいて**未来**がある

今から80年前、本校は「挙母町立東部中学校」として、この地で始まりました。10年後に校名が現在の「豊田市立崇化館中学校」となりました。東部中時代の卒業生に、プロ野球の選手として活躍された先輩がいました。お名前は、杉浦忠さんと言います。現在のソフトバンクホークスにつながる南海ホークスの投手として、当時ナンバー1打者と言われていた長嶋茂雄さんがいる読売ジャイアンツと日本シリーズで対戦し、4連投して4連勝して、日本一になり、その年のタイトルを独占されました。

杉浦投手は、引退後、郷土の英雄として豊田市名誉賞を受賞されます。その受賞を祝い、東中と崇中の卒業生で、杉浦氏を慕う有志の同窓会が結成されました。その会を「東崇（とうそう）会」と言います。この度、東崇会の結成30年を記念し、開校80年目を迎える崇化館中へ、すべての教室に設置できる台数の教室用デジタルタイマーを御寄附いただきました。

先日、贈呈式がありました。贈呈式には、30代から80代までの50名を超える卒業生の方々がいらっしゃいました。最高齢は、84歳の4人組の皆さんでした。『今も母校があるのはうれしいよ』と笑顔で話されていました。本校の大先輩にあたる皆様方に、次のようなお礼の御挨拶をしました。

『御寄附いただいたデジタルタイマーは、来月5日の研究発表会に向けて有効に活用させていただきます。先輩方がいて**崇化館の「今」**があります。後輩たちがいて**崇化館の「未来」**があります。皆様方の後輩たちも頑張っています。東崇会の皆様のようにずっといつまでも崇化館を好いている、そんな後輩たちを育て、崇化館中の未来をつくってまいります』

と、とっても緊張しながらお話しました。

さて、いよいよ体育祭です。皆さんも体育祭で緊張する場面があると思います。緊張するのは、頑張って準備をしてきたからです。緊張する自分に気づいたら、自分で自分をほめてください。体育祭は、その名のとおり「お祭り」です。「お祭り」ですから勢いが大切です。開会式から勢いをつけたいです。登壇した人が話し終わったら、大きな拍手で勢いをつけましょう。はじめの「只今から、令和8年度体育祭開会式を始めます」から大きな拍手をしましょう。その後の「来賓紹介」も「生徒代表あいさつ」も「選手宣誓」も、登壇した人が話し終わったら、大きな拍手で勢いをつけましょう。その勢いで、「崇中校歌」を歌い上げましょう。

「崇化館中学 誇りあり」 歌い終えた後、自分たちの団の意気込みを称え、思い切り拍手の音を響かせてください。それぞれの団と崇化館中の誇りに期待しています。

(10.13 全校集会より)

崇中ヒストリー

「崇中校歌」

開校3年目の冬、昭和24年1月16日、完成した崇化館中学校の校歌が披露されました。崇化館中で3年間を過ごした初めての生徒たちの卒業に間に合いました。完成したばかりの自分たちの校歌を歌って巣立っていく喜びはどれほどを大きかったことでしょう。以後、崇中校歌は長く歌い継がれてきました。崇中校歌を歌って卒業された方は、その数2万人を越えます。

ところで、入学式や卒業式では、校歌1番・2番を歌いますが、崇化館中の校歌は3番まであります。卒業された方にお聞きすると、「3番を歌った記憶がない」と言われます。30、40、50、60代と、時代をさかのぼってお聞きしたところ、70代の方から「3番まで歌っていましたよ」という証言を得ました！ 幻(!?)の崇中校歌3番の歌詞を紹介します。

崇中校歌3番の歌詞

衣の里の丘広く 山川の気のあつまりて
伸びゆく力はつらつと 理想をかざして励みゆく
見よや文化のはな咲くところ 崇化館中学ほまれあり

